

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)防災・減災のまちづくりについて

- ①大火に見舞われた両津夷本町商店街の復興案
- ②事前対応型のハード・ソフトの両面からの対策
- ③火災警報器更新・IHコンロ購入・電気配線交換工事への補助策

(2)高齢者が元気に輝き続けるムラづくりについて

- ①新穂湯上温泉・トキ交流会館・周辺地域を高齢者等のシェアハウス（CCRC）へ
- ②トキガイド・佐渡金銀山ガイド・ジオパークガイド養成講座への受講促進と関係人口の増大
- ③市民後見人養成講座への受講促進

(3)佐渡市奨学金制度を一本化、『佐渡市若者未来応援基金（仮称）』の設立提案について

- ①佐渡市奨学金制度の現状
- ②佐渡市奨学金制度の2045年頃までのキャッシュフロー予測
- ③佐渡市子ども未来応援基金との連動による切れ目のない子育て支援

■■■演壇にて■■■

皆さん、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会の室岡啓史でございます。『なんでも提案団』として通告に従い、私にとって平成最後の一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

## 【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

### (1)防災・減災のまちづくりについて

#### ①大火に見舞われた両津夷本町商店街の復興案

#### ②事前対応型のハード・ソフトの両面からの対策

#### ③火災警報器更新・IHコンロ購入・電気配線交換工事への補助策

過去の一般質問で継続的に取り上げております。防災・減災のまちづくりについて質問します。去る1月2日午前3時45分頃に、両津夷本町商店街において火災が発生。3名の尊い命が失われました。亡くなられたお三方におかれましては、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、15棟約4,000平方メートルが焼失し、今もなお、市営住宅等に仮住いの被災者の方もおられます。被災されたすべての方に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興が遂げられますことを心よりお祈り申し上げます。私は、両津港、あいぽーと佐渡、両津夷・両津湊の市街地、加茂湖エリアも含めて一体的な観光地域づくりの計画が必要だと考えます。例えば、被災地を緩衝領域（バッファゾーン）の機能をもつ空地として残し、中庭パティオ方式の駐車場付きショッピングエリアとすることも一案かと考えております。設備投資のコストを抑えられるコンテナハウスや移動販売車等による準仮設のお店が建ち並びイメージです。当然、被災地はそれぞれ個人の財産であり、地権者の方々のご意向が第一優先であることは言うまでもありません。しかしながら、防災・減災のまちづくりの観点から、行政が合意形成のコーディネーター役として力を発揮しながら、換地の調整や代替地の提案等を行うこと、復興策を検討・調整・立案していくということも必要なのではないでしょうか。大火に見舞われた両津夷本町商店街の復興について、そして両津地域の一体的な観光地域づくりの計画について、どのように考えているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、事前対応型のハード・ソフトの両面からの対策についてお尋ねします。花角英世新潟県知事は、防災・減災対策は『喫緊の課題』と対策重視、河川改修を軸とした防災・減災対策を重視する意向を示されております。『少ない予算で効果が出る方法や、お金をかけずに防災力が高まる方法などソフト・ハード合わせて考えたい』と強調されております。そこで、佐渡市としても防災・減災対策をソフト・ハード両面から考える必要があると思います。また、事前対応型の治山治水事業の必要性についても知事は訴えております。私は、治山治水事業のみならず、大地震や大火災等の対策についても当然事前対応型であるべきだと考えます。つまり、『備えあれば患いなし』ということです。そこで、佐渡市民の①生命・②身体・③財産を守ることにについてソフト・ハード両面からどのように考えているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、火災警報器更新・IHコンロ購入・電気配線交換工事への補助策についてお尋ねします。平成21年、火災警報器設置促進のために実施した『住宅用火災警報器普及促進事業』。また、高齢者のみ世帯を対象として、ガスコンロの消し忘れ等による火災を防ぐための電磁調理器購入補助策である平成30年度『高齢者生活支援事業

(補正予算)』について、佐渡市の全世帯に拡充するべきではないでしょうか。また、近年の火災の原因の一つに漏電によるものが少なくないと感じております。これはタコ足配線等による防止可能な原因もあると思いますが、電気配線の老朽化も原因の一つではないかと考えます。火災警報器を更新、IHコンロを購入、電気配線交換工事の推進のため、住宅リフォーム制度の拡充版等による実施ができないものかと考えます。そしてとりわけ、佐渡市内の木造住宅密集地域いわゆる『木密地域』においてこそ重点的に対応しておく必要があると考えます。昨年度の大規模断水の反省により、水道管凍結防止対策工事は三か年の住宅リフォーム制度の中に組み込まれたものですが、事前対応型の事業として同様に実施するべきではないでしょうか。佐渡市の見解をお聞かせください。

## (2)高齢者が元気に輝き続けるムラづくりについて

- ①新穂潟上温泉・トキ交流会館・周辺地域を高齢者等のシェアハウス（CCRC）へ
- ②トキガイド・佐渡金銀山ガイド・ジオパークガイド養成講座への受講促進と関係人口の増大
- ③市民後見人養成講座への受講促進

高齢者が元気に輝き続けるムラづくりについてについてお尋ねします。新穂潟上温泉が2月末をもって一度閉鎖となってしまったことは大変残念です。あれだけ努力の姿が見える取り組みを行っても、報われないこともある厳しい現実を目の当たりにした事案です。そこで、今後の新穂潟上温泉については、どのようになっていくのか佐渡市の見解をお聞かせください。私は、平成31年10月から指定管理制度を導入予定のトキ交流会館と一体的に運営し、入浴・食事・宿泊・ムラ歩きが新穂潟上地域内で一体的に体験できることで、トキとの共生を目指す滞在型観光地域づくりの仕組みがつかれるエリアになると考えます。また、周辺地域に高齢者等のシェアハウス（CCRC）を建設し、新穂潟上温泉・トキ交流会館の両施設の管理・運営を入居者の皆さんにも協力してもらうことで地域経済を循環させるという構想です。

リタイア世代の方々をメインターゲットとして、トキガイド・佐渡金銀山ガイド・ジオパークガイド養成講座への受講促進を一層強め、佐渡のガイドとして観光のお客様とのふれあいの中で、佐渡のファンを増やしていただき、佐渡の関係人口増大へとつなげて行けるのではないのでしょうか。佐渡観光交流機構としては、2030年までに佐渡の関係人口100万人を目指す！との定量的目標を設定。その目標とも相乗効果の図れる構想であると考えます。佐渡における関係人口の象徴である『さどまる倶楽部』の会員数増加にも向けて、佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、市民後見人養成講座への受講促進についてお尋ねします。今年度、社会福祉協議会主催の市民後見人養成講座を受講させていただきました。全10回の座学による研修、2回の実地研修、2回の面談等の中で、多くのことを学ばさせていただきました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。市民後見人とは、親族以外の市民

による後見人のことで、弁護士などの専門職後見人と同様に家庭裁判所が選任し、判断能力が十分でない方の①身上監護と②財産管理について本人を代理して行う制度です。被後見人つまり本人を後ろから見るサポート役が後見人と言えます。また、市民後見人には、後ろから見るサポート役として、社会福祉協議会の後見センターがありますのでいつでも相談できる体制が構築されており安心です。親族が島外におられることが多い離島佐渡でこそ市民後見人活動は必要であると再認識致しました。また、行政、社会福祉協議会、家庭裁判所、高齢者施設等がコンパクトに存在している佐渡でこそ市民後見人が活躍する地域づくりが実現できると思います。高齢化が進む佐渡において、認知症等による後見人を必要とする方々は今後増えていくと考えられます。つまり、将来的には市民後見人が足りなくなることです。私は、そうならないためにガイド養成講座同様、リタイア世代の方々をメインターゲットとして市民後見人養成講座への積極的参加を促すべきであると考えます。佐渡市として、どのように市民後見人養成講座の受講生を増やし、市民後見人として活動される方を増やしていくおつもりなのか見解をお聞かせください。

### (3)佐渡市奨学金制度を一本化、『佐渡市若者未来応援基金（仮称）』の設立提案について

#### ①佐渡市奨学金制度の現状

#### ②佐渡市奨学金制度の2045年頃までのキャッシュフロー予測

#### ③佐渡市子ども未来応援基金との連動による切れ目のない子育て支援

まず、佐渡市奨学金制度の現状についてお尋ねします。平成30年度からスタートした返済不要の新奨学金制度についてはどのような状況でしょうか。また、近年中の受給希望者等の予測はどのようになっているのでしょうか。

次に、佐渡市奨学金制度の2045年頃までのキャッシュフロー予測についてお尋ねします。2045年は佐渡市公共施設等総合管理計画の最終年度です。また、人工知能が人間の脳を超える技術的特異点＝シンギュラリティを迎える年であると予測されている年でもあります。その頃、この新奨学金制度はどのようになっていると予測されているのか、何割・何名程度が卒業後10年の内、5年以上佐渡に定住し返済不要となっているのか、支給と返済とのバランスがどのようになっていると予測しているのか佐渡市の見解をお聞かせください。私は、『佐渡市奨学金制度』と『佐渡市医療技術者奨学資金貸与制度』とを統合し、『佐渡市若者未来応援基金（仮称）』の設立をすることで、奨学金の『見える化』を行い、繰入金等の調整をするべきであると考えます。また、基金として明文化することで、将来は佐渡に戻って働こうと勉学に励む若者のために寄付をしたい、ふるさと納税をしたいという機運を今まで以上に高めることができるのではないかと考えます。

そして、『佐渡市若者未来応援基金（仮称）』の設立により、平成30年4月1日に運用を開始した『佐渡市子ども未来応援基金』との連動による切れ目のない子育て支援が、基金としても実現できると考えます。それらのことについて佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。